答辞

アブドゥル・ハリム・ムアザム・シャー・マレーシア第１４代国王

天皇皇后両陛下主催宮中晩餐に於いて

東京　皇居

２０１２年１０月３日

天皇陛下、
皇后陛下、
閣下、
皆様、

天皇陛下から大変温かい歓迎のお言葉を頂戴し、王妃共々深く感謝の意を表します。また、我々一行の到着以来、天皇皇后両陛下、日本政府及び日本国民の皆様には、手厚く御親切なおもてなしを頂くとともに、すばらしい手配をいただいたことに対し、心から感謝申し上げます。美しい貴国に御招待いただいたことは大変光栄であり、日本国民の皆様の笑顔と親切な心に強く魅了されております。

５月にロンドンで開催された英国女王陛下御即位６０周年記念行事において、天皇皇后両陛下にお会いし、両陛下との個人的な友好をさらに深めたことを懐かしく思い出します。また、ロンドンにおける再会は、何十年も前に初めてお会いした際のすばらしい思い出を呼び起こすものでありました。さらに、我々は、両陛下が１９７０年に皇太子同妃両殿下として、また、１９９１年及び２００６年に天皇皇后両陛下として、我が国を３度御訪問いただき、誠に光栄であったことを鮮明に覚えております。我が国をよく御存じでいらっしゃる両陛下に対し、喜んで、そして謹んで敬意を表します。このようなことから、今回の我々の国賓としての訪問が、日本とマレーシアの友好と協力の絆を強固なものにすると強く確信しております。

貴国は、桜の花と共に独自の文化を有し、常に魅力的な訪問先であります。また、貴国の目覚ましい経済成長や国際社会で果たされている指導的立場は、常に我々を鼓舞する源であります。貴国の独特の発展、技術の進歩、優れた近代化には、敬服せずにはいられません。昨年の東日本大震災後、日本国民の皆様におかれては、数々の困難に直面されておりますが、貴国が世界の卓越した国々の中で引き続き競争力ある力強い国であり続けるものと信じております。

天皇皇后両陛下、

日本とマレーシアとの関係が５５年前の両国の外交関係樹立から常に強固で、かつ、友好的であり続けていることを誇りに思います。両国民の関係は、５世紀以上も前のマラッカ王国と琉球王国の時代にさかのぼります。この歴史的に

良好な関係が、貿易、投資、教育、観光、人材育成、文化交流、科学技術といった幅広い分野における好ましい発展と実質的な協力を通じて発展してきたことを喜ばしく思います。

両国間における経済関係は、二国間関係における強固な柱であります。貴国が我が国にとって最大の投資国であり続けていることを心強く思います。事実、貴国の投資は、マレーシア人の雇用を創出し、マレーシアの産業発展を促進する上で、非常に大きな機会を生み出してきました。

今年は、東方政策３０周年という両国にとって大変重要な年です。３０年前に東方政策が開始されて以降、およそ１万５千人のマレーシア人が貴国の大学や企業で勉強の機会や訓練を受ける機会を与えられており、このことを天皇皇后両陛下にお伝えできることを喜ばしく思います。

東方政策は、両国において引き続き活発である文化交流や青少年交流を始める上でも極めて重要な役割を果たしました。２１世紀東アジア青少年大交流計画（ＪＥＮＥＳＹＳ）やキズナ強化プロジェクト（アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流）といった交流プログラムは、両国の若者たちの相互理解、友情及び連帯といった強い絆を作り上げました。我々の未来は、このような若い世代の手の中にあり、両国の若者の間に培われた友好親善関係によって、両国間の良好な関係が今後も続くであろうことを喜ばしく思います。

閣下、
皆様、

ここに杯をあげて、天皇皇后両陛下の御健勝と日本とマレーシアの両国民の末永い友好関係を祈念したいと思います。